

販社のPC端末3500台をDaaSへ移行 端末運用一元化とガバナンス強化を実現

NSSOLのサービスを採用し、ユーザーサポートまで一括委託

背景

更新時期を迎えた販売会社のPC端末3500台を、DaaS(仮想デスクトップサービス)へ移行する。端末運用一元化とガバナンス強化を実現するとともに、長期的に社員のワークスタイルを革新する基盤にしたいと考えた。



株式会社資生堂
情報企画部長
亀山 満氏



株式会社資生堂
情報企画部
課長
毛戸 一彦氏



株式会社資生堂
情報企画部
参事
木村 公紀氏



株式会社資生堂
情報企画部
津川 佳子氏

SHISEIDO

株式会社資生堂
本社：東京都中央区銀座7-5-5
創業：1872年
資本金：645億円(2012年3月31日現在)
売上高：単独2248億円/連結6823億円(2012年3月期)
従業員数：単独3874名/連結3万2595名(2012年3月31日現在)
グループ会社：子会社97社、関連会社13社

ソリューション

事前検証などに基づき、新日鉄住金ソリューションズ(以下、NSSOL)のサービスを採用。PC端末をシンクライアントへ変更し、仮想デスクトップ環境の運用からユーザーサポートまでをNSSOLにフルアウトソースする。

成果

対象PC端末を約4カ月でDaaSへ移行。シンクライアントでも以前と同様の業務アプリケーションや周辺機器を利用可能にしようえ、フルアウトソースによって、端末運用などを含めたトータルコストを削減している。

販社PC端末のDaaS移行を検討、どこからでも情報へアクセス可能に

「一瞬も 一生も 美しく」というコーポレートメッセージの具現化に向け、化粧品やヘルスケア事業などを展開する資生堂。グローバル企業への転換を戦略的に進めるとともに、国内では「Beauty & Co.(ビューティーアンドコ)」や「watashi+(ワタシプラス)」といった新サービスで顧客との一層の関係強化を図っている。

同社がグループ販売会社のPC端末3500台のDaaS(仮想デスクトップサービス)への移行を検討したのは2009年である。DaaSでは、PC端末のデスクトップやデータをデータセンターの仮想デスクトップ環境に集約するため、端末運用一元化とガバナンス強化が実現する。また、どこからでも必要な情報にセキュリティを保ってアクセス可能になるため、長期的にワークスタイルを変革する基盤にしたいと考えた。

事前検証の結果を基に、NSSOLのサービスを採用

資生堂は要件をまとめて、複数のITベンダーに提案を募る。その中から3社のDaaSについて3カ月にわたり、資生堂の業務アプリケーションや端末周辺機器に対する事前検証を実施。その結果を基に採用したのが、新日鉄住金ソリューションズ(以下、NSSOL)の「DaaS(仮想デスクトップサービス)@absonne」である。

NSSOLのDaaS(仮想デスクトップサービス)@absonneは、同社のクラウドITインフラサービス「absonne(アブソンス)」、米Citrix Systemsのデスクトップ仮想化ソフトウェアや米NetAppのユニファイドストレージなどで構成されている。仮想デスクトップ環境が稼働するNSSOLのデータセンターと、資生堂の業務アプリケーションが稼働するデータセンターを専用線で接続することによって、各システムを連携させる。

端末運用一元化とガバナンス強化を実現し、トータルコストを削減

DaaSへの移行は2011年10月中旬に東京の拠点から始めた。2012年1月には、対象となるPC端末すべての移行を完了。併せて、仮想デスクトップ環境の運用からユーザーサポートまでをNSSOLにフルアウトソースしている。販社には多様な業務アプリケーションや周辺機器があるが、基本的にすべてシンクライアントで利用可能にし、以前と同じ方法で業務が進められるようにした。

成果は大きい。セキュリティパッチをデータセンターで集中的に適用するといった端末運用の一元化や、データをデータセンター内に保管するといったガバナンス強化が計画通り実現。端末の運用やユーザーサポートに関するトータルコストを削減している。今後は、長期的な目標としてユーザーのワークスタイル変革に取り組んでいく。

Key to Success

更新時期を迎えた販売会社のPC端末3500台を資生堂がDaaSへ移行した背景には、端末運用一元化とガバナンス強化の実現がある。

情報企画部長の亀山満氏は「以前はOSなどのセキュリティパッチを端末のユーザーが適用していました。また端末内のデータ持ち出しが制限しにくいという課題がありました」と語る。

DaaSでは、PC端末のデスクトップやデータをデータセンターの仮想デスクトップ環境に集約し、ユーザーはシンクライアントからアクセスして利用する。セキュリティパッチ適用などの運用は、データセンターで一元的に実施できる。データもデータセンター内に保存して端末に置かないため、セキュリティを容易に強化可能だ。

情報企画部 課長の毛戸一彦氏は「DaaSの導入自体が目的だったわけではありません。ITインフラのあるべき姿を検討するなか、運用一元化やガバナンス強化を行いながら、運用を含めたトータルコストを削減するという点で、DaaSが最適なソリューションだと考えました」と語る。

DaaSは2段階で選択した。まずRFP(提案依頼書)に応じた数社から3社を選定。さらに3社のサービスについて資生堂の業務アプリケーションや端末周辺機器に対する事前検証を約3カ月実施した。その結果に基づき採用したのが、新日鉄住金ソリューションズ(以下、NSSOL)の「DaaS(仮想デスクトップサービス)@absonne」である。

毛戸氏は選定理由について「検証結果における評価の高さのほか、検証中に発生した問題への対応がNSSOLは最も早く、実際の導入時も迅速な対応を期待できました」と語る。

その後、プロジェクトは2011年3月に発生した東日本大震災で一時中断したが、同年8月に再開。10月には東京の拠点から導入を始め、2012年1月には全国70拠点にある対象PC端末すべての移行を完了した。

問題への対応が早いNSSOLにサポートまでをフルアウトソース

情報企画部 参事の木村公紀氏は「販社には多様な業務アプリケーションや周辺機器があり、DaaS導入に際してさまざまな問題が発生しましたが、NSSOLのエンジニアは一つひとつ確実に解決していききました」と語る。

情報企画部の津川佳子氏は「最も多いときは毎日、NSSOLのエンジニアの方と打ち合わせを行いました。大変熱心に問題に対処していただきまし

た」と語る。

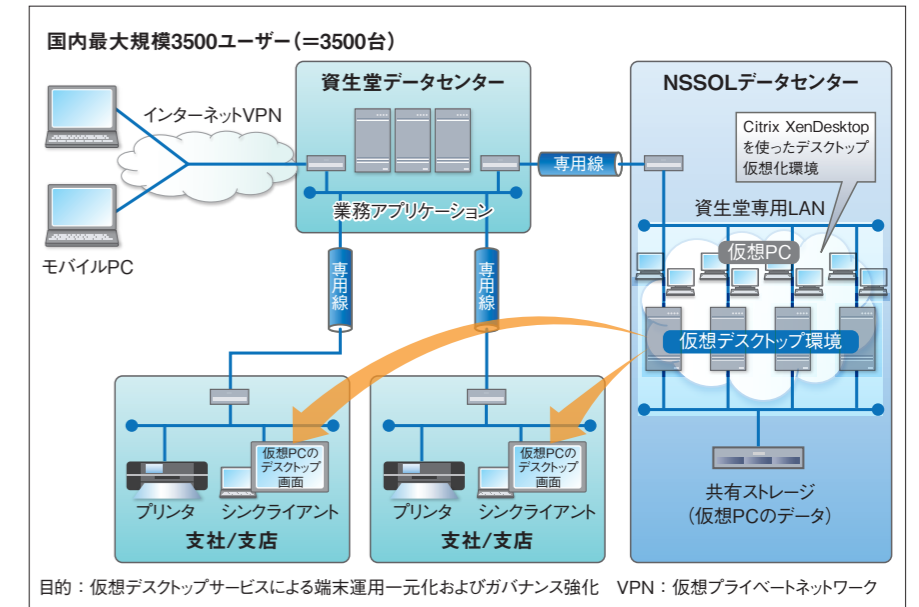
DaaSは、順調に稼働している。販社の業務アプリケーションや周辺機器は基本的にすべて利用できるうえ、使い勝手が大幅に向上した。

「どの端末を使っても、自分のユーザーIDでログインすれば、すぐに自分のデスクトップとデータにアクセスでき、大変便利です」(津川氏)。

今後は、長期的な目標としてユーザーのワークスタイル変革に取り組む。DaaSでは、どこからでも必要な情報にセキュリティを保ってアクセスできる。外出先や出張先などでも仕事ができるほか、育児や介護などを行いながら仕事を進めることも可能だ。

亀山氏は「当社は2017年までの長期経営計画を策定していますが、その実現にはITを活用したワークスタイルの革新が不可欠だと考えています。資生堂本社、研究所、工場などへのDaaSの展開も検討しています」と語る。

■資生堂が導入したDaaS(仮想デスクトップサービス)@absonneの概要



■コアテクノロジー

仮想デスクトップ(VDI)、シンクライアント、節電、事業継続性、Citrix XenDesktop、NetApp FASシリーズ

■システム概要

- サービス：DaaS(仮想デスクトップサービス)@absonne
- クライアント：3500台